



東京部会(第76回)

日時: 2015年6月25日(木) 19:00-21:15

場所: 日本大学経済学部本館2階中会議室

参加者: [順不同] 篠原総一(京都学園大学)、加藤一誠(慶応義塾大学)、杉田孝之(千葉県立津田沼高等学校)、石山晴美(東京証券取引所)、鈴木深(東京証券取引所)、大倉泰裕(千葉県立松戸向陽高等学校)、升野伸子(筑波大学附属中学校)、塙枝里子(東京都立府中東高等学校)、中沖栄(清水書院)、新井明(上智大学非常勤講師)、以上10名。

【内容要旨】

(1) 最初に、異動された榊原宏司さん(東京証券取引所)の後任として鈴木深さんのご挨拶をいただいた。つづいで、石山さんから、夏休み経済教室の準備状況の報告があった。

現在の申し込み状況は、名古屋(中)40名、同(高)41名、大阪(高)58名、同(中)60名、東京高校初日171名、二日目150名、東京中学初日113名、二日目99名となっている。例年に比べ、名古屋はやや増加、大阪がやや少なく、東京高校はかなりの申し込み数とのことであった。後援申請、宣伝、当日配付資料の締切、教科書の寄贈依頼などに関する詳細な報告もされた。

東証の講義の講師及び内容の変更に関して検討を行なった。そのなかでは、高校教科書に記述されている株式や株式会社に関する内容の背景にある事実や理論をできるだけやさしく、現場の先生方の素朴な疑問に応えられるような内容を心がけてほしいとの要望が寄せられた。

篠原代表が担当する講義「金本位制、世界恐慌、ブロック経済」に関する内容検討を、杉田先生が作成された「質問メモ」に基づき行った。大学の国際経済学の講義のようにならないこと、日本史や世界史の先生方に質問されたときに公民の先生がおたおたしないような内容のものが有難いということなどが話し合わせ、教科書や資料集の当該部分の記述を参考に講義内容を編成することとなった。

新井から、西村先生の講義予定内容、大竹先生の講演の質問事項なども紹介された。

(2) 篠原代表から、名古屋部会の様子が報告された。先生方の実践報告だけでなく、発信ができるようなネットワーク活動の趣旨生かした部会運営を目指してほしいと要望した、との報告があった。また、京都部会の様子の報告も行われた。

(3) 教材検討委員会(東京)が進めている、升野先生原案の『たこ焼き屋ヤッキー』改訂版の検討が行われた。

生産活動にはお金がかかる、そのお金をたこ焼き屋に投入するリスクを取るから利益がえられることを理解させたいという趣旨の教材であることが確認された。その際、売り上げと経費、利益の関係、労働者(パート)の賃金の位置づけ、ヤッキーの賃金分の扱い、設備と減価償却の関係など、さらに詰めなければいけない部分が残ったため、大坂部会に持ち込みさらに検討を加えることになった。(升野先生は東西交流で7月4日の大阪部会に参加予定)

(4) 実践報告関係では、塙先生の「時間の経済学」の報告があった。

「時間の経済学」はアリとキリギリスの話から始まり、時間割引の考え方を教える教材である。6月2日に行われた授業の生徒のワークシート、感想なども持参され、生徒が授業に興味を持ってのぞみ、理解を深めた様子が報告された。今後、時間割引率の計算、金利の理解など経済の授業のなかでこの教材が生かせるように、展開をさら



に考えたいとのことである。なお、「時間の経済学」は、夏の経済教室(東京高校)の実践報告の部で紹介される予定である。また、東証と日本証券業協会が発効している『レインボウニュース』の最新号(7月発刊)に掲載される予定である。

(5) 定期考査の試験問題は、新井のものが紹介された。

高校三年生対象、選択講座の考査問題で、授業の演習でやったセンター試験や私大の入試問題を素材にした正誤判定問題である。ほとんどが知識問題で、この種の訓練を多くやることで知識は得られるが、経済的な見方や考え方は訓練されないという意見などが交換された。また、同じ考査で書かせたエッセイ、市場経済の評価、アベノミクスの評価に関しては、生徒の意見が完全に二分されているという報告も併せて行われた。

(文責、新井)

---

次回開催予定:9月5日(土)14:00~16:30。場所は日本大学経済学部。議題は、夏の教室総括、大阪部会、札幌部会からの派遣の先生を迎え、教材に関するディスカッション、定期テストなどの情報交換、他を予定。